

## 秋篠宮皇嗣同妃両殿下お成り



5月31日、第35回全国「みどりの愛護」のつどいにご臨席される秋篠宮皇嗣同妃両殿下が和歌山県入りされ、稲むらの火の館と広村堤防をご視察されました。

稲むらの火の館前では、「なかよし子ども園」の4、5歳児が日の丸の小旗を持ってお出迎えしました。両殿下は、かがみこんで子ども達と目線を合わせて、言葉をかけていらっしやいました。町長、議長、教育長がお出迎えのご挨拶の後、館長の先導と案内でご見学いただきました。



広村堤防では、広小6年生、耐久中3年生、日本遺産ガイドの会会長が日頃の防災教育活動の説明をしました。



平成27年7月の天皇陛下(当時、皇太子殿下)、9月の上皇上皇后両陛下(当時、天皇皇后両陛下)につづくご来館は、誠に光栄なことと、有難く存じております。

## 「稲むらの火の館」国土交通大臣表彰

6月1日は「気象記念日」です。本年度で、第149回目となるそうです。その記念式典が、気象庁本庁で行われましたが、「稲むらの火の館」が国土交通大臣表彰を受賞いたしました。

和歌山地方気象台から推薦していただいております。当館が国内外を問わず地震津波に関する防災知識の普及啓発に取り組み、広く地震津波防災意識の高揚に貢献した、ということを評価していただいたものです。今回、一般功績として受賞したのは、当館1団体のみでした。

館長が、6月3日の記念式典に出席して、斉藤鉄夫国土交通大臣から手渡しで拝受いたしました。令和2年の「大阪管区気象台長感謝状」同3年の「気象庁長官感謝状」につづく榮譽に、有難く厚く感謝しています。

和歌山地方気象台からは、歴代の気象台長さんをはじめ職員の皆様のご支援をいただき、気象庁が作成した地震津波、その他気象に関するパンフレットの配布等のご協力をいただいております。地震津波や気象に関する専門的な知識を、分かりやすく説明したパンフレットです。

3階配布コーナーへ、書架台まで提供いただき、各種パンフレットを置いています。子ども達にも分かるようにとの、マンガで表したものもあります。興味のある方は、ご来館の際にお持ち帰りください。



# 百世安堵

関西大学社会安全学部 近藤誠司

## 第40回 災害情報をめぐる偶有性 2.0

災害は、われわれのあずかり知らぬリズムやタイミングで牙を剥く。それはだから「偶然」起きたかのように見える。しかし、よくよく考えてみると、そこには確かにリスクがあった。冷静に分析すると、危難は「必然」に見えてくる。

ところで、災害のパターンは多様である。他なる可能性、別の選択肢を考え抜くと、被害想定はどんどん分厚くなる。偶有性を梃子にした防災はタフかもしれない。しかしそれは無限定に過ぎる。

そこで「確率論」を持ち出すのだが、「決定論」的に思い詰めない限り、計算は人々の心には馴染まない。天気予報で降水確率が30%だと言ったとき、傘を30%だけ準備するわけにはいかない。傘を持つか持たないかは、二択だからだ。

「確率論」的に考えて、しかし行動は「決定論」的にふるまう。その「割り切り」は、ひとつの達観である。そのことがダメだとは言わない。しかし、何か居心地の悪さを感じている人がいることも確かである。さっきまでサイエンスで語っていたのに、オチは結局、情緒論・精神論なのか…。

そこで、ひとつの脱出路として——これはあくまでも、試論（私論）であるが——災害情報をめぐる偶有性には、もう一段、異なるステージがある点を指摘しておこう。名付けて、偶有性 2.0。

「他でもあり得る」、その道行きとは？

それは、一言でいうならば、リスクにきりきり舞いしない「生き方」の確保である。防災だ、減災だと言いつつ募っているのは、現代の風潮、日本社会の特性に過ぎないのであって、「生き方」自体は他でもあり得るわけだ。千年前の日本でも、千年後の日本でも、異なる感覚が宿っていた／宿っているだろうし、サブサハラやボルネオ、アマゾンなど、現在でも地球上の至るところに自然と溶け合った暮らしぶりが存在している。そこから多くの人生哲学を学び、よりタフになるのだ。

## 【館長日記】

○1面に書きました「国土交通大臣表彰」を受賞した式典に出席した機会に、東京神田の岩本町というところにある記念碑を見に行きました。



何の記念碑かと言いますと、濱口梧陵翁に関することです。安政5年(1858)、江戸や周辺の蘭学医らが資金を出し合って、神田お玉が池に天然痘対策の種痘所を造りました。ところが1年足らずで神田の大火の際に類焼してしまいました。現在でもそうでしょうが、皆でお金を出し合って造った施設が短期間で燃えてしまったら、再建は非常に難しい。応援を求められた梧陵翁は、都

合700両の資金を提供して、再建を支援しました。その種痘所を最初に建設したところが、岩本町2丁目の、あるビルの壁に記念碑が設置されているのです。ネットには、その写真もあるのですが、それをどうしても見たくて機会を待っていました。念願かなって、写真を撮りました。

○NHK神戸放送局から連絡がありました「稲むらの火の館」の館内に展示している資料についての問い合わせでした。「井宮メモ」という資料についてでした。

これは、1995年の阪神淡路大震災の際に、震源に近いところにあった診療所に勤務されていた井宮医師が、震災の犠牲者の死亡状況をスケッチして、内容をまとめたもののようです。



それは、原本ですか、複製ですかと聞かれましたが、淡路島での出来事ですから、原本のはずがないと答えました。しかし、詳しく分からないので、「北淡震災記念公園」へ問い合わせましたが、向こうにもないとのことでした。大変貴重なもののように、NHKからは取材にられました。

それは、原本ですか、複製ですかと聞かれましたが、淡路島での出来事ですから、原本のはずがないと答えました。しかし、詳しく分からないので、「北淡震災記念公園」へ問い合わせましたが、向こうにもないとのことでした。大変貴重なもののように、NHKからは取材にられました。